

香川県埋蔵文化財センター考古学講座

平成30年度 第2回

香川の大名家墓所

一生駒・山崎・京極編一

平成30年9月8日(土)10:00~12:00

古野徳久
(香川県埋蔵文化財センター 調査課)

2018/8/15

1

1 はじめに

- 大名家墓所は、かつては考古学の対象ではなかった
- 埋蔵文化財調査の進展の中で、より新しい時代が調査対象に含まれるようになった。
- 近世考古学は1980年代以降活発化～区画整理の墓地改葬
- 最近では太平洋戦争遺跡も発掘調査や遺跡保存の対象となり、研究も活発に行われている。
- 香川県でも、高松城や城下、それに関連する近代遺構の発掘調査が多く実施されている。
- 大名家墓所調査の先駆 1950年代徳川將軍家、60年代岡山藩主池田家、70年代仙台藩伊達家等
- 文化庁 全国の大名家墓所をそれぞれに特色を持つ地域の代表的な文化財の一ジャンルとして保存の動き。国庫補助による調査と史跡指定
- 今、隠れた？ブーム「墓マイラー」

2018/8/15

2

大名家墓所から何が見えるか

- 江戸時代300大名家 江戸、国元、高野山 数え上げることのできない数の墓所が存在
- 発掘調査を行わなくても、考古学的手法を用いた分類・分析が可能
- 將軍家を頂点とする階層性を表示(地上・地下とも)。大名家内でも藩主、正室、子女、一族、側妾の階層差
- 江戸時代の習俗としての葬制を示す
- 藩の政治的、経済的な動きがわかる
- 墓の姿形は似ることはあっても、それぞれが独自の様式により墓所を営んでおり、大名家同士の比較は難しい

2018/8/15

3

本日の筋立て

- 讃岐国生駒家、丸亀藩山崎家、同京極家、多度津藩京極家の墓所を紹介(松平家墓所は時間の都合で次回)
- 県内所在の墓所を中心に、供養塔、菩提寺を見ていく。
- 県外のものも可能な範囲で
- 「墓」とは遺体やその一部が埋葬されているもの。遺髪や歯等が分祀されている供養塔もその一つ
- 墓所内での位置や墓の規模によって階層差が示されていることが見えてくる。墓所が複数あれば、そのことにも必然性がある

2018/8/15

4

2 生駒家墓所

- 天正15年(1587) 生駒親正、讃岐国入部
- 天正16年(1588) 高松城築城着手(同18年完成)
- 慶長2年(1597) 丸亀城を築き、子一正を置く(~慶長6年)
- 寛永17年(1640) 4代藩主高俊、生駒騒動により出羽国に改易
- 墓所は妙心寺玉龍院(京都)、弘憲寺、法泉寺(以上高松市)、志度寺(さぬき市)、弥谷寺(三豊市)
- 参考文献: 松田朝由「生駒家墓所」(『第7回大名家墓所研究会』2015)

2018/8/15

5

弘憲寺墓所(高松市)



- 初代藩主親正夫妻の墓(2基)
- 弘憲寺 法勲寺(丸亀市)を高松西濱に移し再興。親正の戒名を寺号とする。
- 生駒親正肖像画(高松市指定文化財)
- 生駒親正夫妻墓所(香川県指定文化財)
- 親正 慶長8年(1603)高松で死去
- 教芳院 慶長14年(1609)死去

2018/8/15

6



- 『生駒家藤堂家古傳噺』(宝永6年、1709)には銘文が記載されており、2塔とも慶長14年(1609)に子の一正により建てられている。夫人の埋葬を契機に建てられたと考えられる
- 墓域を囲む特別な区画はない

2018/8/15

- 2基とも地上高約3mの五輪塔
- 親正がこの下に埋葬されているかは不明
- 天霧石製だが、風化が著しく銘文も剥落

2018/8/15



志度寺親正墓(さぬき市)

- 慶長15年(1610)、3代藩主正俊が母永福院と共に親正菩提のため造立(県史)
- 全高2.73mの五輪塔で、弘憲寺よりやや小さい。
- 方形の切り石基壇や全体の形態は似るが、火輪の屋根と軒の境の段形成が新しい属性(矢印)



2018/8/15

法泉寺墓所(高松市)

「法泉寺のおしゃかさん」



- 境内に生駒廟(2代藩主一正墓と3代藩主正俊墓を納める)
- 天正15年(1587)親正が宇多津に建立、生駒氏の菩提寺
- 慶長3年(1598)正俊により高松城下三番丁に移転。寺号は正俊の戒名にちなむ
- 一正 慶長15年(1610)死去
- 正俊 元和7年(1621)京都で死去

2018/8/15

10

生駒廟

- 霊廟建築(昭和20年、重要美術品)
- 慶長15年(1610)造立(一正の死に際して)
- 1間四方宝形造本瓦葺
- 内部に一正墓と正俊墓が並ぶ
- 昭和24年に東方70mの現在地に移転。その際、一正の遺骨と副葬品、正俊の遺髪が出土。再び埋葬された



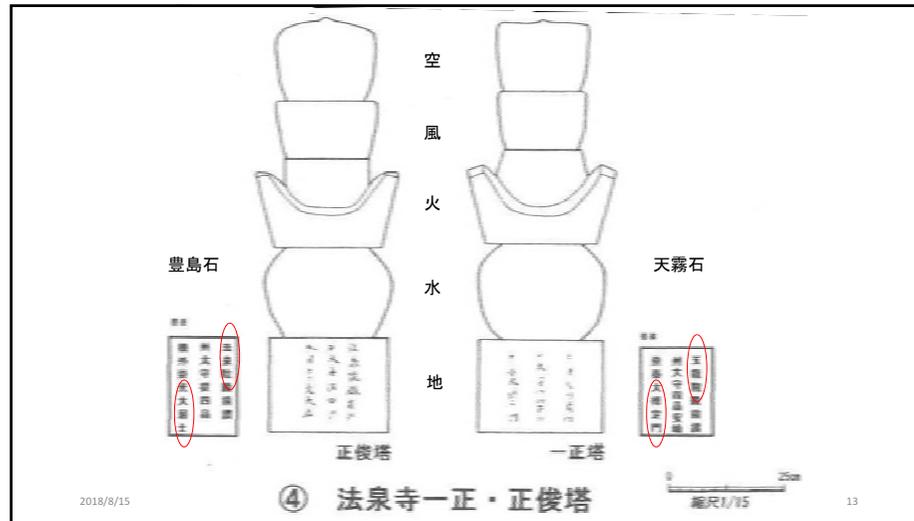
2018/8/15



- 右:一正墓
- 左:正俊墓
- とともに全高0.88m。戒名の銘は残るが、年号は未記載
- 両墓は酷似するが、形態・石材・銘文により3代正俊墓が後出する
- 志度寺親正墓とも形態の連続性

2018/8/15

12



弥谷寺一正墓(三豊市)

- 弥谷寺 親正が伽藍を再興し、以後生駒家の庇護を受けた
- 慶長5年(1600)一正が寺領寄進。御恩報謝のために寺が建立(町史)
- 遺髪塔の伝承(高橋邦彦)
- 区画施設はなく、他の五輪塔と共存
- 天霧石製。基壇はない。地上高3.52m
- 形態は弘憲寺や志度寺に類似。



生駒高俊正室秋月院墓(高松市)

- 実相寺
- 高俊が浅野から番丁に移転再興(現在は三谷に移転)
- 土井利勝の娘。寛永15年(1638)没
- 妹は松平頼重の正室万姫であったことから、松平頼重が庇護



玉龍院墓所(京都)

- 妙心寺塔頭
- 慶長3年(1598)、生駒一正が大川紹瀧を招き創建。
- 生駒家の菩提寺
- 一正の法名に由来
- その後廟堂を建造
- 出羽配流の高俊や出羽藩最後の藩主親敬も墓所としている

生駒家墓所の特色

- 讃岐には菩提寺もあるが、固定された様相が見えない
- 讃岐では一族墓を形成しない。一族墓所としての機能は玉龍院
- 大名墓としての属性(大型、霊屋)も持つが、区画施設や石組みの基壇を備えてなく、18世紀以降の完成・固定化した大名家墓所の姿となっていない
- 五輪塔という中世以来の伝統的な形態
- 石材に地元の豊島石や天霧石を用い、石工集団の把握を暗示
- 供養塔の存在(領国支配における志度寺・弥谷寺の重要性)

2018/8/15

17

(参考) 矢島藩転封後の生駒家墓所

- 龍源寺(由利本荘市) 矢島藩国元の菩提寺
- 高俊墓(五輪塔)のみ。柵で囲まれた墓域を持ち、大名としての家格を保つ。また塔形に4代藩主としての継続性
- 海禅寺(台東区) 矢島藩江戸の菩提寺
- 慶長年間に本郷妻恋坂に創建。その後現在地に再建
- 関東大震災後の区画整理で縮小、現在再建墓のみ(江戸大名墓総覧)
- 養福寺(荒川区)に高俊・親興親子の合祀宝篋印塔。供養塔?
- 規模も小さく、宝篋印塔が本来の形をまねたものとするれば、高俊後に大名でなくなったことを反映?

2018/8/15

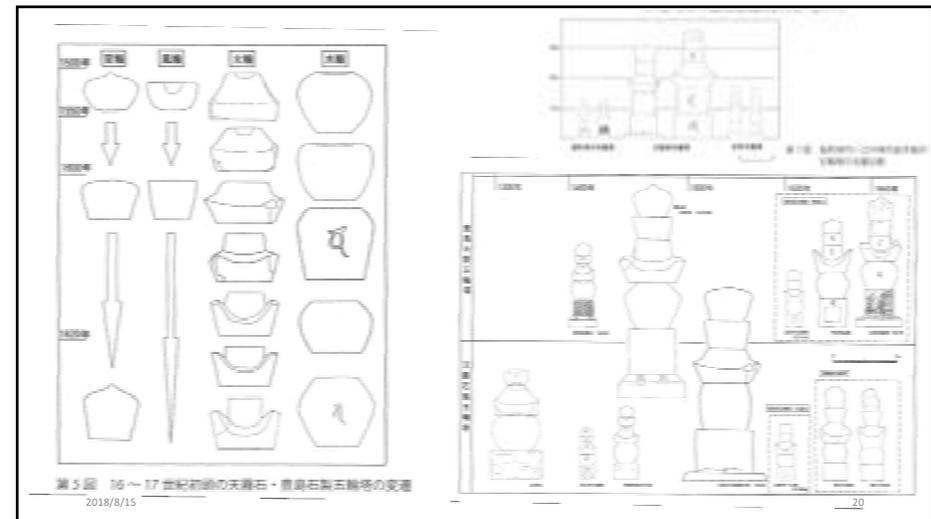
18

讃岐における大型石塔出現の意義

- 讃岐の中世石塔は鎌倉時代に大型塔が見られ、南北朝時代に規模が縮小、室町時代の大量生産期には小型塔が主体になっていく。(全国共通。造墓主体の拡大)
- 天霧石製は16世紀段階には全高1m程度が一般的
- 生駒親正の大型石塔の出現は画期となるが、この時期ほかにも3m前後の石塔がある
- 建てた人物を見ていくと権力を外部に誇示するものではあるが、身分を示すものではない(松田)
- 16世紀末に信長や秀吉の大規模な葬送、墓所造営により巨大な墓に権力を示すことが復活(狭川真一)

2018/8/15

19



20